

みなみまち協だより

第11号 平成30年3月15日
発行所：みなみまちづくり協議会
高山市岡本町1-18 南小学校内
Tel&Fax 34-0114
題字：内木 能里子(八軒町2)



南地区の風景

アルプス展望公園『スカイパーク』

旧パークボウル跡地に整備された公園で、市街地や飛騨山脈(北アルプス)の眺望がよい公園です。

正面には乗鞍岳が、目を北へ転ずると焼岳、穂高連峰、槍ヶ岳、笠ヶ岳、が視界に飛び込んできます。冬の夕暮れ、沈む夕日で紅に染まる雪の北ア

ルプスの山々の光景を「岳(だけ)の御神渡り(おみわたり)」というそう。そんな幸運はめったにありませんが、市街地の夜景は天気さえ良ければ見えます。この公園の住所は上岡本町7丁目で南地区となります。

「岳(だけ)の御神渡り」：雪の飛騨山脈が日没前に夕日に映えて赤く染まる事。昔の飛騨人が神様が山々を歩かれるとって拜んだという。

桜 句

昔の有機農業と言えば、人糞尿を使うこと。汚く臭く決してロマンチックなものではなかった。肥やし桶を大八車に乗せて、少年の

私はじいちゃんと一緒に、南校の前の広小路を通って、西一色の田に運んだ。「どうして俺がこんなことを」と心が痛んだ。皆食うのに精一杯の時。南校の前で同級生の女の子と会おうと、もう死んでしまいたかった。

人生には困ったことや悲しいことや不条理がいっぱいあると知った。まさに人生の肥やし桶で、こういうことは心を強く鍛えてくれる。

だから今の子供にも肥やし桶を運ばせるとい話ではない。ただ、面白いことや楽しいことばかりでは子供をスポイルしてしまう。スマホばかりに夢中になっている孫たちに何を言おうかと考える。昔のオヤジのようにどなりつけることもできない。皆肥やし桶なんて知らない。

どこを向いても子供だらけで、貧しかった時代は終わった。豊かさや便利さの中で少子化は進む。少い子供をどう甘やかさないで育てるか。

もうすぐピッカピカの新生児たちが入ってくる。
(中林利数)

今年度の活動を振り返って

みなみまちづくり協議会会長 黒田 久美子

みなみまちづくり協議会が始まって三年目。「社教の延長」「どこが違うの」「前のままでよかった」「ただ役員・委員を出すのが増えただけで町内は大変になった」と言われつつ、でも進んでいかなくはならず試行錯誤が続きました。

各部の部長さんはどう行っているのか迷いながら行事を進めてきましたが、周りに言われるように社教の延長のようにもみうけられました。

「何かもつとやらなくてはならないのだが、どのように進めていけばいいのか」毎日が悩みでした。三年目になるのにまだまだ地域に知られていなく無関心が多く、なんだか頑張っている自分が切なく馬鹿に見えてきます。でも受けた以上は地域を考え皆さんに関心を持っていただくようにしなくてはと、出来る限り毎日まち協事務所に通い行事の進行状況を事務局より聞き、それに対して必要であればアドバイスや意見を入れ聞いてもらうようにしました。

周りから見ればボランティアなのにあんなにまでしてと笑われるかもしれないませんが、受けた以上その責任は大きいもので、ほっておけない自

分がありました。

今年度最大の変化は、町内会長さんとの連携でした。まち協の運営にあたり、昨年度までは全てをまち協役員だけで進めてきました。今年度からは連合町内会長さんと町内会長さん代表五名に月一回の会議に出席していただき、まち協の運営に参加していただきました。昨年度までは役員会としていたのをまち協役員と町内会長さん代表との会議ということで運営委員会と改めいろいろな行事や問題点を皆で協議し進めました。町内会とのつながりも深まったと思っております。

ふれあい文化祭も保育園・小学校・中学校・高校と連携し、今年も盛大に開催する事が出来ました。千人を越える来場者でしたが、文化祭開催を知らない人も少なくないと思っております。どうしたら周知できるか考えていかなければなりません。

課題は沢山有りますが、皆さんの力をもつとお借りして地域を守り地域は地域の皆で創っていくよう頑張って行きたいと思えます。やつてよかった、参加してよかった、と思っていたるように。

地域づくり部

地域の課題解決への取り組み

地域づくり部長 三尾 尚之

今年度は「地域の絆を深め、安心・安全なまちづくり」を部門目標とし、地域の課題に取り組み、みんなで話し合い、助け合える地域を目指して活動してきました。その中でも情報提供については今年度に関することから来年度に関することまでの業務となり、一年間の内、約半分の歳月を要する活動となっております。

情報提供とは以前の町内要望のことであり、各町内の問題点を取りまとめ、より多くの情報を市へ提供することで地域の課題を解決に導くものです。市道の修繕が主となっておりますがそれ以外の情報も多く寄せられます。以前の町内要望では提出するだけで何も回答が来なかったことが多かったようですが、情報提供に代わってからは市のどこの課が担当するのか、今年度対応できるかどうかなど何らかの回答が必ず町内会へ届くようになりました。

その中でも地域枠といつて維持修繕関連の高山市予算が一地区一千万円となっており、対象となつている情報提供案件からどの箇所を今年度実施するかを決めなければなりません。まち協だけでは決められないので

連合町内会と連携して行っています。現地立会を経て維持課により概算金額を提示していただき、検討会を開催して決定していますが、みなみ地区では毎年約一億円以上の概算金額となり、一千万円以内に抑えるということは非常に困難なことであります。

しかしながら連合町内会、対象町内会長の御協力により取りまとめが出来ているのが現状です。高山市では見直しを検討しながら継続していく方針ですのでこの情報提供が地域の課題解決に向けてつながっていくことを期待しています。

防災に関しては今年度も「みなみ地区全体の防災を考える会」を実施しました。今までこのようなことはみなみ地区では実施されていませんでしたが、まち協となつて地域の課題と位置づけて昨年より実施しています。

今年度は各町内でも防災に関して意識が高くなりつつあり、独自に防災講演会を開催した町内会があります。高山でもいつ何が起きるかわかりません。まち協としてできる共助を今後も期待します。



「募金活動」

福祉部長 飯山 碩志

福祉活動は、住民皆様のご理解、あたたかいご支援、部員の皆さんのボランティア活動により成り立っています。今回、募金と寄付金等の活動について、報告と御礼を申し上げたいと思います。

● 一円玉募金

六月と九月の二回行いました。部員の皆さんに町内会への募金依頼案内を配布して頂き、募金をお願い致しております。募金方法は町内により様々ですが、募金していただいたお金は、銀行振込かまち協事務局へ持参して頂いています。

● ふれあい文化祭りサイクルバザー

今年十月十五日に実施しました。七月中旬より準備をお願いし、収益金は別表の結果となりました。

このバザーは単なる収益だけが目的ではなく、各家庭に眠っている有用な物品を提供して頂き皆様に低価格で再活用していただくためのものです。提供頂きました物品は、陶磁器類、タオル、掛敷布、洗剤、バッグ、本、衣類等々多種多様にわたっています。今年は全てお買い上げ頂きました。皆様、誠にありがとうございました。

● 古布石鹸、キャップ回収と寄付

回収に当たりましては、八月から十月にかけて準備をお願いし、十月中旬から

二週間程で集積しました。十一月十八日に、部員十四名に参加して頂き、古布の分類、切断、ダンボール箱詰、キャップの袋詰を行いました。

古布、石鹸はダンボール十六個集まり、八カ所の介護老人施設、アルカディア、それいゆ、新宮園、豊楽園、南風園、向陽園はなさと、宙へ寄付しました。施設の方々も大変喜ばれておりました。

キャップは百五十七キロ集まり、サンタの倉庫さんを通じ「世界の子供達へワクチンを日本委員会」に送り、ワクチン購入のための支援を行いました。

集めて頂いた募金は、十二月二十日、歳末助け合い運動、社会福祉協議会へ八万円、つつ寄付を致しました。

皆様のご協力ありがとうございました。

平成29年度 福祉部 募金一覧

	事業名	金額(円)
募金	一円玉募金	142,162
	リサイクルバザー	18,830
	前年度繰越金	4,368
	募金合計	165,360
寄付金	歳末助け合い運動	80,000
	社会福祉協議会	80,000
	寄付金合計	160,000
	残金(来年度繰越)	5,360



たくさんさんの参加に感謝

社会教育部長 水野 千恵子

本年度も社会教育部の主催事業にたくさんの方が参加してくださり、盛況に終えることができ、大変感謝しております。

長寿会事業は六月に「あんしん・あんぜん講座」を四地区に分けて行いました。参加者は合計百三十七名にものぼり、健康と交通安全の講話に熱心に耳を傾けてくださいました。人生の先輩である皆さんがいつまでも元気に頑張っている姿は私たちの目標となります。

スポーツ事業は五月に丹生川ひろ野での「グラウンドゴルフ大会」に四十九名、九月の「松倉ウォーキング」に七名、二月の「親子ボウリング大会」に五十名の参加をいただきました。幅広い年齢層でしたが皆さん健康的に汗をかいてスポーツを楽しんでいました。

教養講座は七月に三年間続いておられます「クラフトテープかごバッグ作り」に三十一名。毎回人気の「ワイン講座」は夏と冬にそれぞれ二十二名と三十名、九月の「グルーデコ」でアク

セサリーを作る講座」は十名、十一月の「とんぼ玉作り」は三名、十二月の「めでた教室」は二回で九名、冬休み中に開催した「親子花もち作り」は四十二名、一月と二月の二回に分けて開催した「こぎん刺し教室」は二十一名と、全八講座にたくさんの方が参加していただき、物作りの楽しさを満喫していただきました。

その他にずっと続いておられます花里・山王両まち協との三地区合同交流会は今回初めてボウリング大会を行い、みなみまち協からは十八名が参加しました。

ふれあい文化祭ではバザーとスポーツ交流会を担当しました。

年間を通して様々な事業を開催しましたが、常に皆さんが関心を持ってくださっておりがたく思っております。

「こんな講座を開いて欲しい」と言った要望がありましたら、いつでも事務局まで声をお寄せください。

みなみまち協 行事・活動アルバム



書初め

平成30年1月6日☺

「美しい文字の書き方教室」(書初め)が新宮小学校体育館で開催されました。新宮・みなみ・三枝まち協の合同企画で、みなみまち協からも小学生の参加がありました。

ワイン講座

平成30年1月25日☺

「新春ワイン講座」が、地場産振興センター3階で開催されました。講師の坂本雄一さんの説明を聞きながら、イタリア産ワインの試飲とそれに合うチーズやパンを楽しみました。30名の方が参加されました。



こぎん刺し教室

平成30年1月29日(金)・2月5日(日)

「こぎん刺し教室」が開催されました。21名の方が参加されました。参加申込者が多かったので、2日間になりました。講師のナナイロさんの指導のもと、ブローチやショールピンを作成しました。



親子ボウリング大会

平成30年2月25日(日)

午後3時より、プレイビーで「親子ボウリング大会」が開催されました。約50名の老若男女が参加して開催されました。



募金寄付

平成29年12月20日(水)

歳末助け合い運動と社会福祉協議会へ寄付しました。

「若葉台高齢福祉連合会」訪問

平成30年2月20日に町内会長、長寿会長、まち協運営委員及び理事にお声かけし、総勢20名で可児市の「若葉台高齢福祉連合会」を訪問しました。

可児市若葉台は昭和45年に名古屋のベッドタウンとして造成されました。現在約3,200人、1,200世帯の方が居住されていますが、その高齢化率が40%近く、可児市でも高齢化が問題となる地区となっています。南地区が約8,000人・3,500世帯です。半分の規模となります。

若葉台自治会は国の高齢福祉施策「施設入所から在宅介護へ」に対応し、今後高齢者が高齢者を介護しなければならない状況になると考え、高齢者の自立支援をサポートすべく、自治体傘下の七団体が集結して「高齢福祉連合会」を設立しました。

七団体「光寿会（長寿会）」、「女性会」、「里山若菜（里山保全活動）」、「食改協」「若葉台ユーマネット」「子ども見守り隊」「民生委員」「地域安全指導員」

主な活動は「ふれあい事業」と「支援事業」で、高齢者の方が住みなれた地域で安心して暮らし続けられるように活動されています。

《ふれあい活動事業》

- いぎいき若葉（介護予防教室月1回・無料）
- 和みの会（会食と交流の機会を提供、月1回400円）
- わかば302（ウォーキングの会1回30分、週2回月・金）
- 里山バーベキュー大会（年2回）
- ダンディーサロン（盆踊りの練習他・月2回）
- 健康麻雀教室（週2回・月金100円）



《支援事業》

- 移動支援ほのぼのアッシーくん
- ゴミだしサポート
- 家事ちょこっと支援
- 困りごと相談
- 緊急しのぎ支援
- ふれあい市場

若葉台自治会のモットーの「手をつなぐ 支えあう街 若葉台」を実現する為に住民の総意によって結成された組織が「高齢福祉連合会」で、「高齢化地域を幸齢地域に」を合言葉に地域住民主体ではじめた小地域近隣福祉活動となります。

この活動は平成24年度「岐阜県地域の絆づくり」重点指定地域 可児市まちづくり協働事業に認定されました。

岐阜県内はもとより、他府県からも視察があり、若葉台方式として注目されています。

南地区も今後ますます高齢化が進むことが懸念され、みなみまち協としても高齢化対策から逃れる事はできないと思われます。今回の視察を通して、南地区での高齢化対策立案のヒントになると確信しております。

今回は速報という形で記事にしました。次号以降に訪問の報告を載せていきたいと思っております。（神田）

来年度役員を選任について

みなみまちづくり協議会規約第8条の規程により、以下のように選考委員を選出し、平成29年11月27日に選考委員会を開催しました。

選考委員

協議会役員から2名：石上 寛、飯山 碩志
協議会理事から3名：蒲 敏夫、河合 博昭、牛丸 英夫
選考委員長：石上 寛

選考結果

平成30年度会長として 黒田 久美子氏を選考しました。

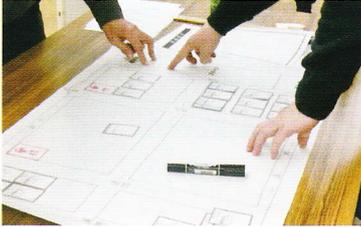
「防災を考える会」に参加して

平成二十九年十二月五日(火)、高山市民文化会館三階講堂で「第二回みなみ地区防災を考える会」が開催されました。講師に高山市民防災研究会 事務局長 岩茸伸一さんをお迎えして、研究会の方々のお手伝いもいただきました。町内会長や町内自主防災組織の方々など約五十名の方が参加されました。

今回は「避難所運営ゲーム(HUG = Hinansyo Unei Game)」を使用して、災害時の避難所の開設・運営をシミュレーションし、ゲーム感覚で体験できました。

このゲームは仮定の避難所の平面図と指示カードで構成されます。カード一枚が人間一人が避難所で占める面積を表現しています。さらに、カードを順番にめくって行く事で、避難所で次々と発生する事象が明記されています。例えば、どの地区の誰それが避難所に到着とか、毛布が何枚到着しましたとか、こういう問題が発生しましたなど。

ゲームは一チーム四、六名で構成され、話し合いながら、避難者の配置を考え指示したり、連絡



の為の掲示板への表示をしたり、様々な対応を次々と要求されます。実は最初に取り組むのは避難所(体育館)の通路の確保をどうするかなのです。避難者が無秩序に居座ると通路も出来ずに混乱の原因ともなります。誰が最初に避難所を開設しても、必ず通路が確保できる方法を日頃から考えておかなければなりません。地震災害の場合は最初に避難された方が避難所の開設を行う可能性もあります。市の担当者が避難所までたどり着けるかも定かではありません。そこで、体育館に避難所開設の手順を明示しておき、さらに手順書も作成するといった、対応を考えていかなければならないと感じました。

このように、防災を肌で感じられる体験を多くの方々にしていただくのも必要かなとも思っています。高山市民防災研究会に問合せいただければ、町内会単位でも「避難所運営ゲーム(HUG)」は体験できるようですので、来年度以降の行事として考えてみて下さい。

(神田)

まち協活動 ふれあい文化祭に参加して

福祉部 老田 弘子

今年、みなみまちづくり協議会の役を受け、会議に参加して役員の方々が一生懸命取り組んでおられるのがわかり、少しでも力になればと「みなみふれあい文化祭」の司会を受け初めて参加しました。どんな事が行われるのか知らないままに、南小学校へ行ったのですが、地域の方の素晴らしさを感じる事が出来ました。

あいにくの天気で、来てくださる方はいつもより少なかったのかもしれませんが、小学生、中学生、一般の方の体育館での発表に足を運んで

広報部 尾前 武

「それでは音響をお願いします」「ええっ」前に決めた役と違う。

とは言え人も足りないので慣れない機材に四苦八苦しなから、ステージセッティング、曲目の確認、音出しのタイミングの打合せ。

今回のふれあい文化祭で広報部の役割は舞台全般の進行、セッティングそして広報としての取材。もちろん人手が足りないなので他の部から応援をお願いしても、ギリギリでした。

松倉中吹奏楽部の演奏から始ま

下さり楽しんでおられるのを見て、人とのつながりがこうして深まってきたと感じました。

司会という事で、何とか進めて行く事が出来ましたが、こういう機会を与えてもらえて、色々な活動を知る事が出来ました。もっとたくさんの方にこういう活動を知ってもらえたらいいなと思いました。文化祭だけでなく、多くの活動がありますが、参加される方が少ないような気がしています。皆さんのアイデアを出し合って、沢山の方が楽しめるようなものがあるといいですね。

り、終了と共に椅子の撤去、次の演目の準備と大忙しです。

最後の演目「高山高校太鼓部」の演奏のときは、体育館の暗幕を全て閉めるのですが、一部の暗幕の閉め方が分からず裏方は右往左往していました。観覧者から見れば、要領の悪い事に見えたでしょうが、時間は迫り大変だったんですよ。

でも、振り返れば裏側から物事を見るのも楽しかったと思います。いかがですか？来年度は裏側から見てみませんか？

「町内活動事業補助」について

まち協事務局より 事務局長 宮岡 宏

みなみまちづくり協議会「地域づくり部」は、町内会の行事（事業）への経済的補助を行っています。これを「町内活動事業補助」と呼んでいます。

これについては担当である地域づくり部長さんに書いていただくのが本来ですが、事務局でも書類を受け付けたり、問い合わせに対応するという作業もあるため、今回は事務局として分かる範囲で説明いたします。

町内会親睦会、グラウンドゴルフ、ハイキング、子ども会活動、防災訓練など南地区二十町内会ではそれぞれの町内会で規模の大小はありますが、町内会行事（町内活動事業）を行なっています。

「町内活動事業補助」は、さまざまな町内活動にかかった経費をある一定の手続きを踏んだ上で補助し、より活発に活動していただく事を目的としています。

みなみまちづくり協議会では、年度初めに「町内活動事業補助」について町内会長さんごとの主旨、具体的な手続きなどを説明します。おおまかな流れは次のようになります。

① 「町内活動事業補助申請書」の提出

町内会は「町内活動事業補助申請書」とそれに必要な経費見積などを書面で提出し事前申請します。

② 「町内活動事業補助申請書」のチェック

提出された「町内活動事業」を地域づくり部でまとめ、予算枠内で収めるために補助率と補助額の上限を定めます。

③ 事業実施後

町内会では随時町内会行事を行っているの、行事が終わって事業ことの総括ができた次第、事業にかかった経費を証明できる領収書の写し、事業を町内会員に案内する回覧文書、参加者の名簿、事業を行ったときの写真などを添付して「町内活動補助申請報告書」（事後申請）をまち協に提出していただきます。

④ 補助金の支払

それらをまち協の役員で検討し、定めた補助率で補助金を算定し、町内会指定口座に振り込みます。

これらをまとめる地域づくり部長の作業量は相当なものとなっています。

町内活動事業補助の流れ

① 「町内活動事業補助申請書」の提出

事業内容と経費見積を記載

② 「町内活動事業補助申請書」のチェック

予算枠内に収まるように補助率と補助額上限を算出

③ 事業実施後 「町内活動事業補助報告書」の提出

〈添付文書〉

- ・ 事業で使用した経費の領収書の写し
- ・ 事業を告知した回覧文書
- ・ 事業参加者の名簿
- ・ 事業の写真

④ 補助金の支払

運営委員会の承認を受け、町内会指定口座に補助金の振込

実際に何が補助対象になり、何が対象外なのか？ 年度初めに書面で町内会長さんにお伝えしますが、分かり難いというご意見も頂いています。補助対象外となるのは「酒宴に係る経費及び飲食費等」という説明にとどまっているからだと思えます。

そこで、次年度に向けて「Q&A」（よくある質問）形式で分かり易い説明文書を作る準備をしています。より多くの町内会でより活発な町内事業を行うサポートができるよう事務局の立場で工夫をしていきたいと考えています。

みなみ地区二十町内会の来年度の町内会長さんには、年間行事計画に基づいて次年度の「町内活動事業補助申請書」の準備に早々に着手していただくようお願いいたします。提出期限は、後日ご連絡いたします。

文芸南俳句

陣屋句会

そこはかと深山端山に春きざす

小鳥輝枝

初蝶の影ゆるやかな翅つかひ

中家富枝

道普請三寒四温今日は晴れ

森本喜恵

雛様見に加賀の干菓子を苞とせん

高木みつ江

梅一輪色紙入れ替ふ和の一字

中嶋文子

葉月会

太箸や掴み損なふ黒の豆

安藤 桂

肩越しに外つ国ことば風光る

上田真穂子

並列に走る自転車寒明くる

栗田美由紀

春寒し酒粕焙る香りかな

小林高子

暁の風のゆるびや春立てり

紺谷健次郎

のどかなり眠気を誘ふ午後二時

下屋孝雄

ピアノ弾く小さき手踊るクリスマス

瀬川章子

日向ぼこ寺苑にあれば仏顔

玉田信哉

珈琲の香りに起きて春の雪

保木信子

春浅し側溝の水動き出す

益田美貴子

春浅し御堂隣の無縁仏

米澤智子

広報部から

平成二十九年十一月十五日発行

「みなみまち協だより」第十号・巻頭の「南地区の風景」で松倉中学校の紹介文に「昭和二十九年七月に『壇岡』の地に建設された・・・」と記載しましたが、「昭和三十年の誤りではないか」とのご指摘をいただきました。

早速、松倉中学校に問合せしましたところ、昭和二十九年に校舎の工事に着手し、翌昭和三十年に完成・移転したとの回答でした。お詫びし

高山市公式 YouTube 動画 みなみまちづくり協議会



みなみまち協ホームページに「みなみまちづくり協議会について 高山市公式 YouTube チャンネルへ」(最初のページの基本方針の下にあります。)

「まちづくり協議会って何? 高山市公式 YouTube チャンネルへ」(新着情報の下にあります) クリックすると見ることが出来ます。「高山市公式 YouTube チャンネル」

にはいろんな動画が掲載されています。

高山市 ユーチューブ 検索

て訂正いたします。

実は、この情報は市のホームページの松倉中学校・校章の由来に記載されていたものを引用したものでしたので、市にもこの事実を連絡し、ホームページも変更していただきました。

ご指摘ありがとうございました。

編集後記

先日「ポウリング場がなくなるようだ」とのうわさを耳にしました。

高山では映画館やファストフード店やチェーン店が次々と閉店し、最後のポウリング場までも閉まってしまふのかと妙に納得してしまいました。

まち協では二月二十五日に親子ポウリング大会を企画しており、社会教育部長はあわててポウリング場へ直接問合せをいれました。そんなうわさが流れていて困っているとの返事と聞いています。根も葉もないうわさだったんです。

ネットですぐ情報が拡散する現代はそれっぽいうわさが一人歩きしてしまう危険性があるようです。広報紙という情報発信をしている身としては、うその情報の発信者にならないように気をつけていきたいと自戒する出来事でした。(神田)